

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	アコライト	Lv.1:		レベル	5
サポートクラス	サモナー	Lv.1:	サモナー	性別	女
称号クラス				年齢	???
種族	エクスマキナ			境遇	略奪
出自 (効果)	傭兵			目標	無目的

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	15	9	7	9	23	11	6
ボーナス	5	3	2	3	7	3	2
クラス修正	0	1	0	2	0	2	1
他修正					1		
能力値	5	4	2	5	8	5	3

HP	54
MP	62
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手									
左手									
頭部	ビレッタ					2			
胸部	スタデッドメイル					6			-1
補助	ミスリルポイントアーマー				-1	6			-1
装身具	聖印								
能力値			4	0	2	0	5	10	10
スキル									
その他									
総計(右)			4	0					
総計(左)			4	0	1	14	5	10	8
総計(両)			4	0					m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	8			8	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	8			8	+ 2 d
エネミー識別	5			5	+ 2 d
アイテム鑑定	5			5	+ 2 d
魔術判定	5			5	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
使い魔：右腕	
冒険者セット	
バックパック	
サイドポーチ	
MPポーション×10	

現在重量： 15
 最大重量： 22
 所持金： 955
 預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
チューニング	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 能力基本値をふたつ選択し、キャラクター作成時に、選択した能力基本値の片方に+4し、もう片方に-1								
プロテクション	5	3	DR直後	20m	単体	自動成功	1/MP	
効果： 対象が受ける予定のダメージに-[SLd]								
アフェクション	★	-	DRの直後	20m	単体	自動	シナリオ回	
効果： 対象が受けるダメージを0にする								
ファミリア	1	-	アイテム	-	-	-		
効果： 使い魔を取得								
ファミリアアタック	5	5	メジャー	20m	単体	感知	使い魔携帯	
効果： 対象に特殊攻撃を行うダメージは [(SL+2)×d+CL]								
ヒール	★	4	メジャー	20m	単体	魔術		
効果： 3d+CL×3のHPを回復								
ファミリアマスタリー	★		パッシブ	-	自身	自動		
効果： ファミリアアタックの判定に+1d								
ハイサモナー	★	3	マイナー	-	自身	自動		
効果： サモナーのスキルへのリアクションに-1D								
アニマルパクト	★	-	マイナー	-	自身	自動	シナリオ回	
効果： 対象：自身以外のサモナーのスキルを対象：場面(選択)、範囲：視界に変更する								
ファミリアコンビネーション	★	9	メジャー	-	自身	自動	メインプロセス回	
効果： ファミリアアタックとタイミングが「メジャー」のスキルかパワーを使用する								
デストロイヤー	1							
効果：								
ファーストエイド	1							
効果：								
ハンズオブライト	1		戦闘前					
効果： フェイトを1点使用、ダメージ軽減を行う魔術の効果に+1d								
トレーニング：感知	1							
効果：								
ハンズオブライト	1		セットアップ					
効果： フェイトを1点使用、ヒールを使用できる								

彼女は、妖魔と戦うために作られた存在だ
 来る日も来る日も、研究の一環として妖魔をその腕で葬ってきた
 そんなある日のこと、施設を超大型の妖魔が襲った
 折り悪く彼女はメンテナンス中であり、研究員達は自らの身を護る為に武器を手にとった。

研究の成果である様々な兵器を用い辛くも妖魔を討伐した研究員達だったが、
 その代償は大きく、研究員達の大半が亡くなり、施設も大規模な損害を受けていた。
 最終的に責任者のとった選択は施設と研究データの破壊だった。

放棄された施設の中で彼女は目を覚ました。
 そんな彼女の視界に広がるのは無惨な姿になった施設と、夥しい量の血の痕だった
 彼女はすぐに自分が守るべき人々を守れなかった事を悟った。

命の途絶えた廃墟の中、真っ黒に染まった心のままに、彼女は仇である妖魔を探し続けていた。

彼女が名乗る名前は、正確には彼女の名前ではない
 彼女の製作者であるアーシアンが最も好きだった花の名前
 いつの日か語ってくれたその笑顔が、今も彼女の腕の裏に焼き付いている

